

第2章

軽井沢町を取り巻く状況

1 軽井沢町の概況

1) 位置・地勢

長野県の東の玄関口に位置する当町は、浅間山（標高2,568m）の南東斜面、標高900～1,000m地点に広がる高原の町です。

町のシンボリック存在である浅間山は、日本を代表する三重式成層活火山で、昭和40年代までは毎年のように噴火活動を繰り返し、鬼押し出しなどの奇勝を生み出してきました。

東から南にかけては、鼻曲山、留夫山、矢ヶ崎山、八風山などの1,000m級の山々が連なり、これらの山間を碓氷峠や入山峠、和美峠などが結んでいます。西側はなだらかな傾斜が続き、佐久平へと続いています。

また、東京を中心として、約100km圏域に主要都市群（高崎・前橋・宇都宮等）が形成され、その圏域周辺に、軽井沢を含む関東の主要な観光・リゾート地が形成されています。

当町の位置的特性を考えると、単に町の中の問題として考えるのではなく、日本の優良な別荘地としての国際的役割を担ってきた歴史と、さらなる軽井沢ブランド化を考えていくことも重要な視点となります。

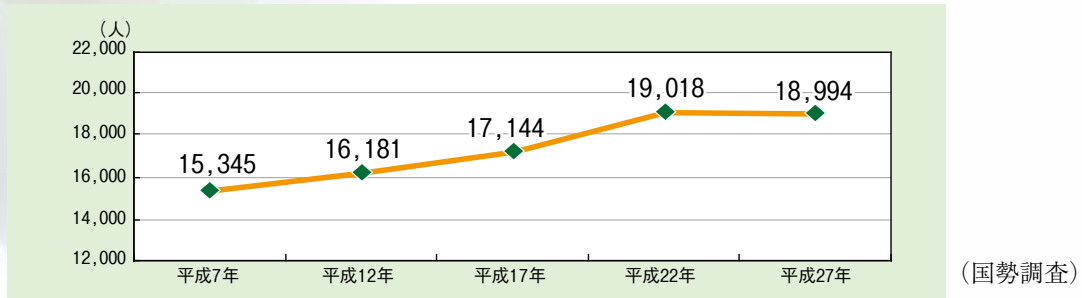
●首都圏周辺の主要な観光・リゾート地



2) 人口・世帯

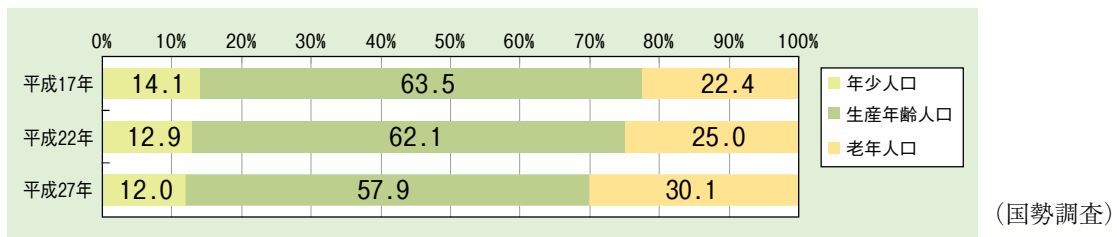
当町の近年の人口は増加傾向で推移していましたが、平成27年の国勢調査では18,994人となり、平成7年以降初めてわずかに減少に転じています。

●人口の推移



年齢3区分別人口では、これまでよりも急速に高齢化の進行がみられ、5年前の平成22年と比べると、老年人口が871人増加し、高齢化率も25.0%から30.1%と5.1%増加しています。

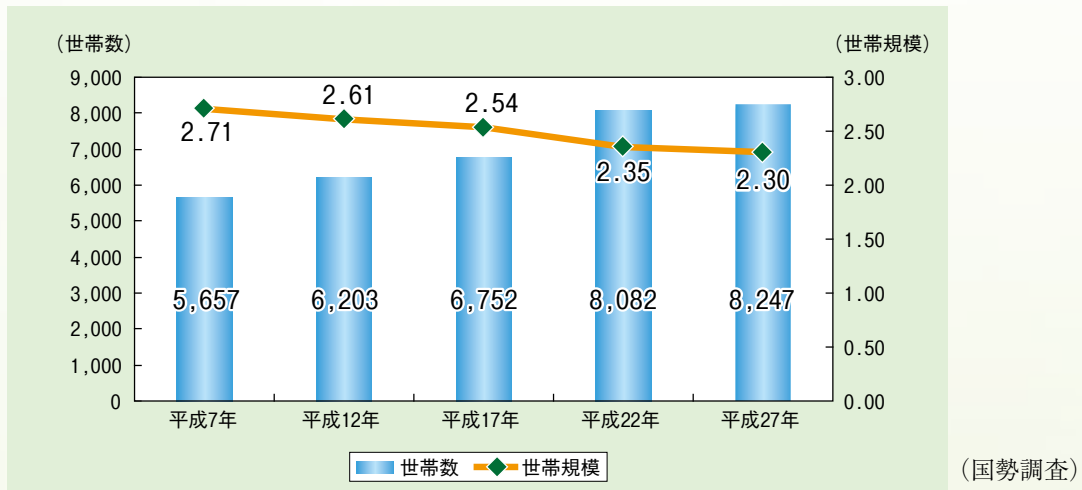
●年齢3区分別構成比の推移



* 年齢不詳を除いた構成比に総人口による構成比

世帯数は5年前と比べ165世帯増加し、平成27年には8,247世帯となっています。一世帯当たり人員(世帯規模)は年々減少傾向が進み、平成27年には2.30となっています。

●世帯数及び世帯規模の推移



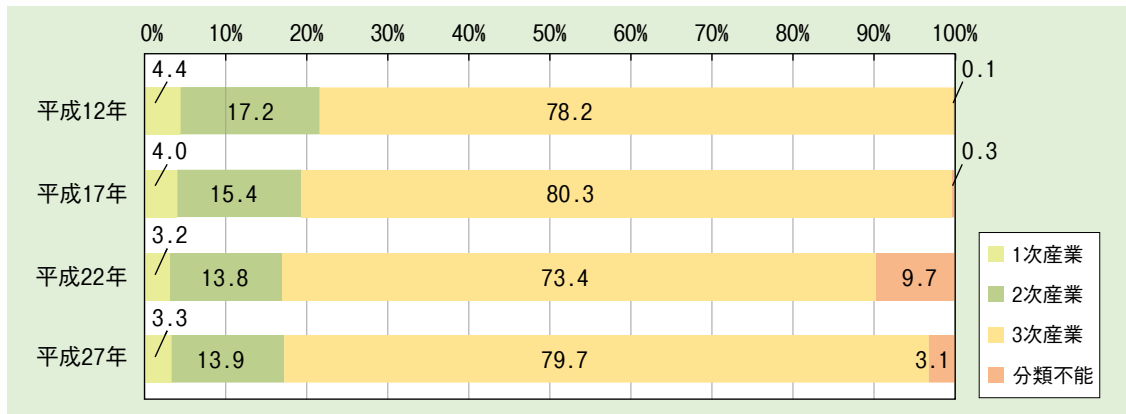
3) 産 業

当町の総就業人口は、平成27年で9,252人となっています。産業別就業人口の構成比の推移をみると、平成22年までは第1・2次産業が緩やかに減少していましたが、平成27年にはほぼ横這いとなり、第3次産業は6.3%増加しています。

産業分類別の就業者数は「宿泊業、飲食サービス業」が最も多い2,142人、次いで「卸売業、小売業」が1,511人となっており、観光業が町の中心産業といえます。

観光の近年の動きとしては、訪日外国人旅行者の増加等を背景に、観光客数・観光消費額ともに、平成23年以降増加傾向で推移しています。しかし、平成28年の一人当たりの観光消費額は3,004円となり、長野県平均(3,454円)に比べ低い数字となっています。

●産業別就業者割合の推移



●参考

- 観光消費額 (軽井沢高原)
: 254億円 (平成28年度)
- 一人当たり観光消費額 (平均)
: 3,004円
(長野県平均: 3,454円)
- 軽井沢町歳入: 145億円 (平成28年度)
- 製造品出荷額: 27億円 (平成26年度)
- 商品販売額: 495億円 (平成26年度)

(観光消費額: 観光地利用者統計調査結果/長野県観光部
軽井沢町歳入: 市町村別財政概要 長野県企画振興部市町村課
製造品出荷額: 工業統計
商品販売額: 商業統計)

●平成27年度 産業分類別就業者数

	人数(人)	構成比(%)
第1次産業	306	3.3
農業	293	3.2
林業	13	0.1
漁業	—	—
第2次産業	1,289	13.9
鉱業	—	—
建設業	673	7.3
製造業	616	6.6
第3次産業	7,373	79.7
電気・ガス・水道等	38	0.4
情報通信業	176	1.9
運輸業・郵便業	233	2.5
卸・小売業	1,511	16.3
金融・保険業	86	0.9
不動産業、物品賃貸業	518	5.6
学術研究・専門・技術サービス業	338	3.7
宿泊業、飲食サービス業	2,142	23.1
生活関連サービス業、娯楽業	535	5.8
医療、福祉	353	3.8
教育・学習支援業	708	7.7
複合サービス事業	68	0.7
サービス業 (他に分類されないもの)	384	4.2
公務 (他に分類されるものを除く)	283	3.1
分類不能の産業	284	3.1
合 計	9,252	100.0

(国勢調査)

2 住民の声

1) 住民アンケート調査

本計画の策定にあたり、町民、別荘所有者へのアンケート調査を実施しました。結果の概要は以下のとおりです。

●調査対象者と抽出方法

調査対象者	抽出方法
町民アンケート調査	18歳以上の町民を対象に、区に加入する全世帯(5,218世帯)を抽出 ※各世帯1調査票を配布し、各世帯において回答可能な最も若い方(18歳以上)が回答。
別荘所有者アンケート調査	平成28年8月1日現在 軽井沢町内に別荘を所有している方1,000人を無作為抽出

●配布・回収方法と実施期間

町民アンケート調査	区長配布及び窓口配布、郵送回収により実施 実施期間は、平成28年8月下旬~9月20日
別荘所有者アンケート調査	郵送による配布・回収にて実施 実施期間は、平成28年8月下旬~9月20日

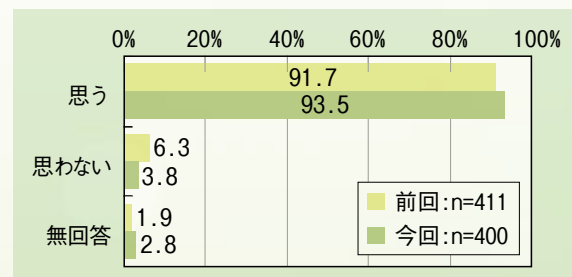
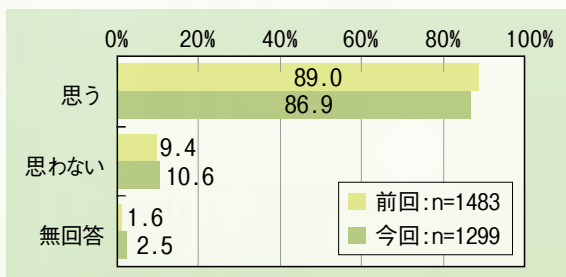
●回収状況

調査名	配布数	回収数(標本数)	回収率
町民アンケート調査	5,227人	1,299人	24.9%
別荘所有者アンケート調査	1,000人	400人	40.0%

①今後の定住意向

- 町民の定住意向は、定住したいと「思う」が86.9%、「思わない」は10.6%となっています。
- 別荘所有者の今後の別荘の所持意向は、別荘を持ちたいと「思う」が93.5%、「思わない」が3.8%となっています。
- 町民、別荘所有者ともに、前回調査(平成22年度実施)同様、定住(別荘所持)意向は非常に高い結果となっています。

●軽井沢町での今後の定住意向(町民アンケート) ●今後の別荘所有者の意向(別荘所有者アンケート)

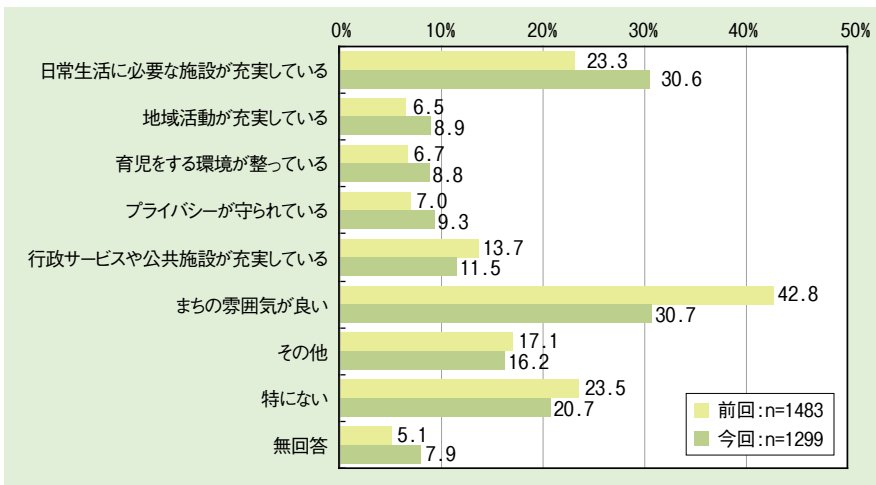


②住みやすい理由

- 軽井沢町の住みやすいところとしては、「まちの雰囲気が良い」が30.7%で最も多く、次いで「日常生活に必要な施設が充実している」が30.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「日常生活に必要な施設が充実している」が7.3ポイント増加、「まちの雰囲気が良い」が12.1ポイント減少となっています。
- 別荘所有者の滞在しやすい理由としては、「自分が望む環境が整っている」が最も多く、次いで「セカンドライフに必要な施設が充実している」となっており、前回調査と比較して、「セカンドライフに必要な施設が充実している」が増加しています。

●住みやすいところ

(町民アンケート)

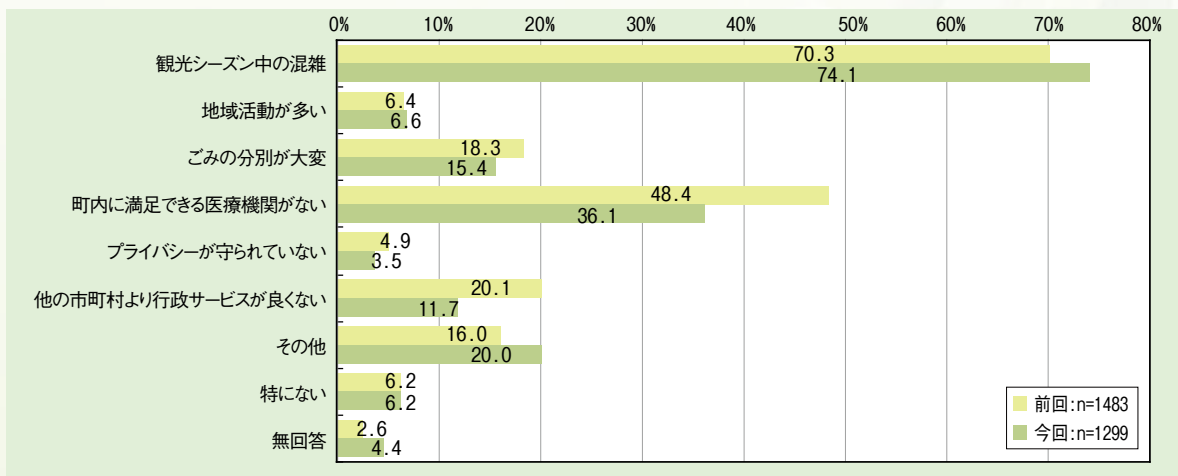


③住みにくい理由

- 軽井沢町の住みにくいところとしては、「観光シーズン中の混雑」が74.1%で最も多く、次いで「町内に満足できる医療機関がない」が36.1%となっています。
- 別荘所有者の滞在しにくい理由としても、「観光シーズン中の混雑」が最も多くなっており、住みやすい居住環境の整備のためには、依然として、観光シーズンにおける交通渋滞対策等が必要とされています。

●住みにくいところ

(町民アンケート)

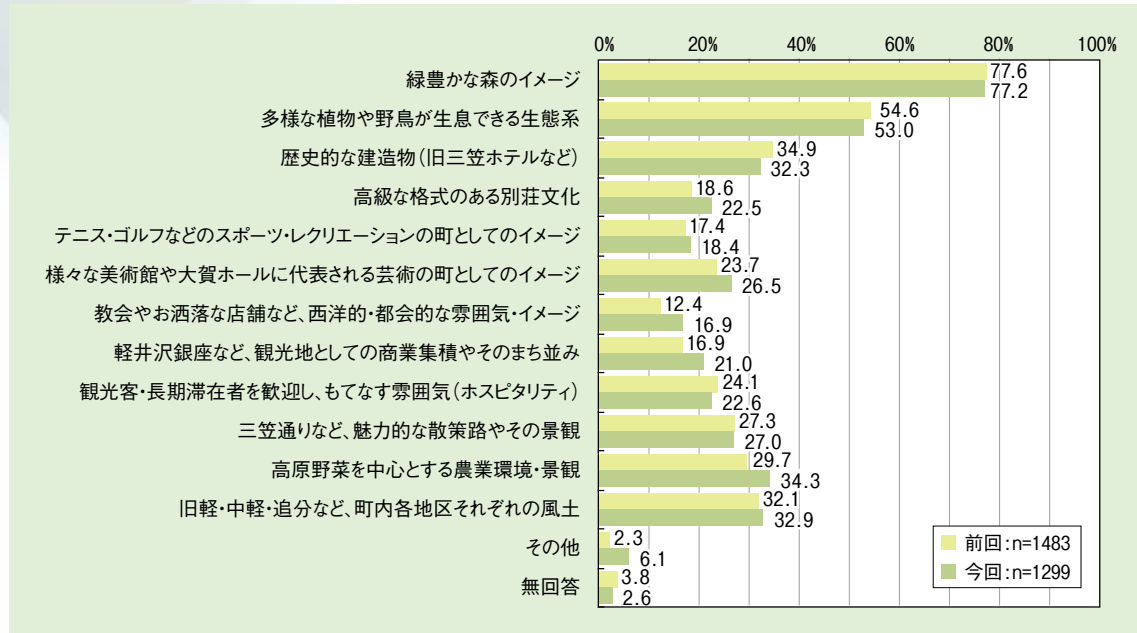


④継承すべき軽井沢らしさ

- 継承すべき軽井沢らしさとしては、「緑豊かな森のイメージ」が77.2%で最も多く、次いで「多様な植物や野鳥が生息できる生態系」が53.0%、「高原野菜を中心とする農業環境・景観」が34.3%となっています。
- 別荘所有者においても、上位3位は町民アンケートと同様の結果となっています。

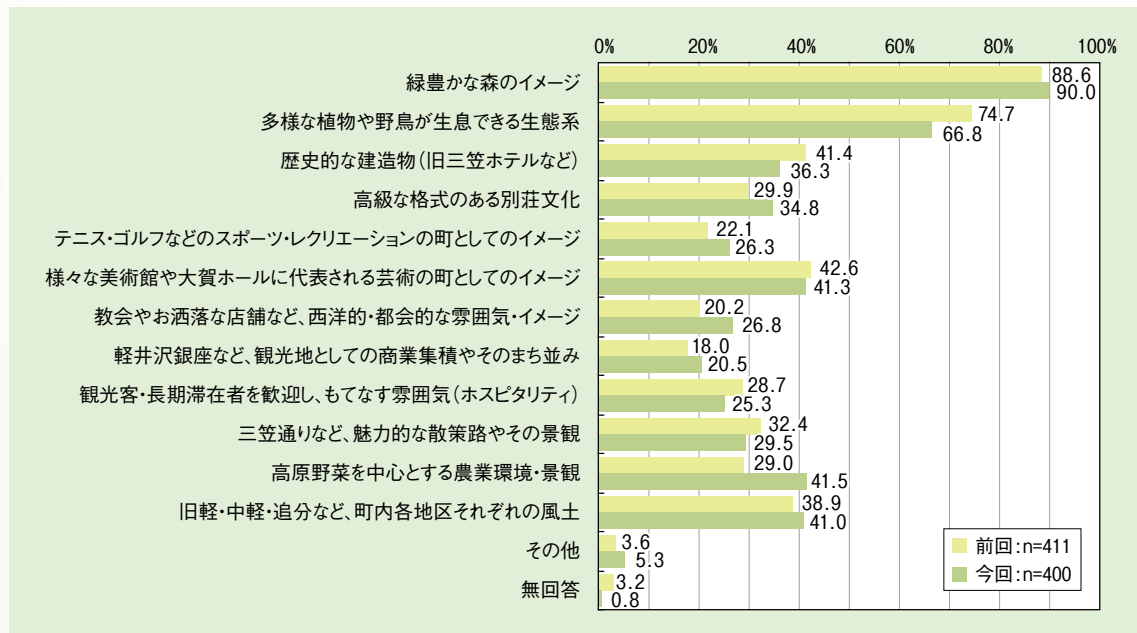
●継承すべき軽井沢らしさ

(町民アンケート)



●継承すべき軽井沢らしさ

(別荘所有者アンケート)



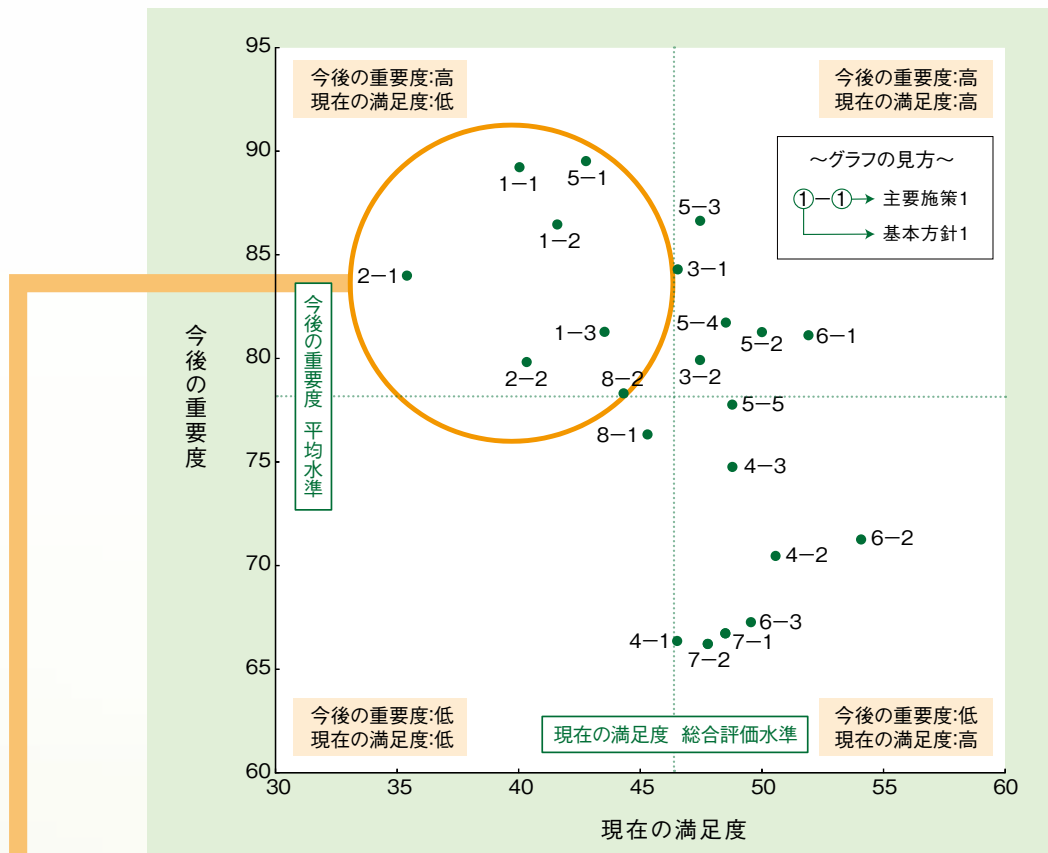
⑤施策の「満足度」と「重要度」によるCS分析*

- 施策に対する「現在の満足度」と「今後の重要度」の評価点を、2つの軸によって構成される座標平面上に展開すると、以下のとおりとなります。
- 特に、町民の関心・期待が高い施策分野であるにもかかわらず、満足度が低い施策群（今後の重要度は高いが、現在の満足度は低い）については、今後の重点的な取り組みが強く求められるとともに、町民の満足度の向上をめざすという成果指標の観点からは極めて投資効果の高い分野ともいえます。

*重要度と満足度の評価に得点を与え、それをプロットすることにより、評価の相関性を求める手法。これにより、満足度の改善にあたり重要度の高い施策を明らかにする。

●現在の満足度と今後の重要度

(町民アンケート)



ポジショニング表示	施策（分野）名
1-1	自然と共生した環境の保全と育成
1-2	美しいまち並みと快適な居住環境の整備
1-3	環境都市にふさわしい生活・社会環境の整備
2-1	まちの骨格を形成する道路網の整備
2-2	公共交通ネットワークの形成
5-1	健やかで安心な生活を支える保健・医療体制の充実
8-2	健全な財政運営の推進

2) 高校生ワークショップ

本計画の策定にあたり、町の将来を担う高校生に今後のまちづくりについての意見・提案を頂き計画に反映するため、ワークショップを開催しました。

●実施概要

[メンバー構成]

軽井沢高等学校生徒会メンバーにより、1グループ6～7名、計5グループ

[協議内容]

1日目：軽井沢町の「良い所」「悪い所」について

2日目：良い所を伸ばす、悪い所を改善するアイデア・方策、
自分たちにできることについて

●主な意見

交通 について	<ul style="list-style-type: none">○公共交通機関の利便性を求める声（「電車、バスの本数や停留所を増やしてほしい」等）や、夏場の交通渋滞、自転車利用者のマナーの悪さなどが課題として挙がっています。○歩道が狭く事故の危険を感じるがあることや、街灯が少なく夜道が怖いなど、安全・安心面の整備に関する要望も多くみられます。
自然・環境 について	<ul style="list-style-type: none">○豊かな自然や、野生動物が多く生息している環境については、“悪い所”に比べ“良い所”としての意見が多く、軽井沢町の長所としてとらえられている様子がわかります。課題として、ポイ捨て等により、歩道にゴミが多くみられるという意見が多くなっています。○今後も軽井沢町ならではの豊かな自然環境を守っていくため、植樹や動物の保護が必要との声が挙がっています。また、自分たちにできる事として、動植物に関する知識を増やすことや、自主的なゴミ拾いを行うという意見がみられます。
観光 について	<ul style="list-style-type: none">○国内有数の観光地であるということは、町への誇りにつながっている一方、渋滞の発生や物価が高いこと等、観光地特有の課題に住みづらさを感じる側面もあるようです。○近年の外国人観光客の増加により、交流の機会を持てること等国际色豊かな環境をプラスにとらえる意見がある一方、観光案内板の不足や、観光客のマナー違反等が課題として挙げられています。○今後は、まだあまり知られていない軽井沢町の魅力を含めて、ホームページ等による情報発信を強化し、観光地としての魅力をさらに高めることが必要との声が挙がっています。だれが見てもわかりやすい「食べ物MAP」をつくる、という具体的な提案も出されています。
町民 について	<ul style="list-style-type: none">○町民については「やさしい」「近所付き合いが良い」等、人柄の良さに関する意見が多くみられます。○今後は町民との交流をさらに深めるため、イベント等による交流の場を増やすことが提案されています。